

第2回 日吉ヶ丘自治会（日吉ヶ丘福祉を考える会） 6名参加
平成29年6月27日 19:30~20:30 於：日吉ヶ丘集会所

主な話し合いの内容

（今回は、団体の皆様より活動の紹介をしていただき、その内容について話し合う形式で行いました。（★=団体、◎=市長））

★日吉ヶ丘は、市営住宅、府営住宅の入居が始まり、昭和46年に森垣自治会より分区してできた自治会である。1つの自治会内に、府営住宅、市営住宅、借家、持ち家、社会福祉法人みつみ福祉会の施設等がある地域である。



★高齢化率は59.51%と大正小学校区の中でも群を抜いて高く、また一人暮らしの高齢者も多い。過去10余年で、記憶にあるだけでも10名以上の一人暮らしの方が亡くなっている。

その中には、回覧板が廻っていないなどから心配になり、地元から関係機関に連絡して訪問したりして発見したケースもある。

また、死亡者や住宅退去者には、身寄りのない方やいらっしゃっても遺留品や遺骨の受け取りを拒否されたり、意思表示をさ

れないケースも多く、現在でも居室等にそのまま放置されたままとなり頭を悩ませている。自治会としても協力できることはするが、処分料の減免など市として協力いただけるところはないか？

★死亡事象の反省から、自治会として、他市を参考に安否を造花や黄色い旗で知らせる取組みを行ったが、一人暮らしを目立たせてしまうという意見もあり、現在では行っていない。

★小学生を講師に迎え、お年寄りとの交流の「折り紙教室」など高齢の方の取組みも積極的に行っているが、教室案内のための訪問などを拒まれるケースも多く、民生委員として頭を悩ませている。

★高齢化対策の一環として、団地内へのバスの乗り入れを要望して実現させ、4年目を迎えた。3周年を迎えた時に、毎月15日を「Happy Busデー」（名称は公募により決定）として、地元でも利用を呼びかけ、利用率も向上しつつある。自治会でもバスの乗降の様子を確認したり、安全の見守りなどを行っている。

★災害の教訓を踏まえ、自治会防災マップや支援マップを作成し、それをパウチして長期保存可能な形で配布し、各家庭でいつでも見えるところに置いてもらえるよう



呼びかけている。

また、市より講師を迎え防災教室や、交通安全教室の取組みも実施している。

★みつみ福祉会として、日吉ヶ丘自治会が、障害のある方をあたたかく自治会の一員として迎えてもらえ感謝している。高齢化に頭を悩まされているが、高齢者が住みやすい地域は、障害のある方も住みやすい地域であるので問題解決に向け一緒に取り組んで行きたい。

★日吉ヶ丘自治会内の子どもは、小学生5名、中学生2名と本当に少ない。

自治会に活気を出すためにも京都の男山団地では、立命館大学の学生が入居しているとも聞くので、日吉ヶ丘団地でもそのような活動ができればと願っている。

◎様々な取組みを写真なども見せていただきながら説明していただき、よく解った。

自治会の方の御協力には頭がさがる思いである。

◎住宅の高齢化問題は全国的にも生じてきている。建った時は若い方が入居されるが、その後、子どもなど家族と一緒に住むことはなく、別のところに出られて、人口は増えないのに世帯数のみが増えるという実態がある。

◎公営住宅は、目的があり建てられているので、公立大の学生の入居は難しいと考えるが、他地域の状況なども研究していきたい。

◎ゴミの問題については、市営住宅では何らかの措置も検討できるが、市営住宅以外のところでも空き家のゴミ問題は出てくるので、解決に向けて関係機関とも協力していきたい。

◎日吉ヶ丘を守って行きたいという思いを沢山聞かせていただき、私としても、みなさんと共々一緒になり、明るくてみんなが楽しいなと思えるようにしたいと思っているので今後ともよろしく願いしたい。

